草原の科学への招待

中村 徹 編

筑波大学出版会

ま　え　が　き

本書「草原の科学への招待」はモンゴル草原のまっただ中で企画されました．編者が研究代表者を務める科学研究費補助金による現地調査で，2003年のウクライナ，2004年のカザフスタンに続き，2005年にモンゴルで調査しているときに，土壌の研究者・田村憲司さんと，筑波大学で「草原」という一般教養科目を開設しよう，という話になり，それに向けた教科書もつくろうということになったのです．

そういうわけで，本書は，筑波大学で開設されている総合科目「草原」の講義録を基に，新たに書き起こした教科書です．同時に草原に興味を持つ一般の方むけの解説書にもなっています．この「草原」では全10回の講義を8人の教官・研究者が受け持ち，毎週交替で各自得意な分野の講義をすることになっています．植生や土壌，水循環，環境保護など，さまざまな切り口で講義するので，学生からは「飽きなくて楽しめる」という評判と共に，「全体としてのまとまりに欠ける」との批判も受けています．そこで，全体を概観できる教科書が不可欠であるという認識で，本書の企画を進めることになりました．

折しも，退任直前の小泉前総理大臣が2006年8月に中央アジアの草原の国カザフスタンとウズベキスタンを歴訪しました．同じころ，筑波大学においても，チュニジアの北アフリカ・地中海連携センターに引き続き，第二の海外拠点・中央アジア国際連携センターをウズベキスタン共和国の首都タシケントに開設する準備に入りました．中央アジアを中心としたユーラシアステップを研究する私たちは，追い風を感じました．本書も時宜を得た企画であったと，我が意を強くしております．

本書の執筆者はみな，現地野外調査のベテランであり，多くの海外調査経験もあります．そして，日本学術振興会科学研究費補助金や科学技術振興機構戦略的創造研究推進事業（CREST）の研究資金により，ユーラシアステップの調査をした者がほとんどです．日本人にあまりなじみのないユーラシアステップで，様々な困難を乗り越えて得られた資料・経験が本書には随所に盛り込まれています．それによって得られた新しい知見も多く含んでいます．もちろんわが国の草

原についてもふんだんに記載されています．

筑波大学は1980年代から，故岩城英夫先生，林一六先生により，わが国における草原生態学の研究拠点の一端を担っています．その伝統はいま私たちに受け継がれ，幅広い展開をみようとしています．本書はわれわれ草原生態研究グループの成果の，現時点での集大成ともいえるでしょう．

本書がきっかけで，みなさんの興味が少しでも草原に向かうことになれば，こんなうれしいことはありません．

2007年8月

四方八方見渡す限りの草原を思い出しつつ

執筆者を代表して　中村　徹